

生神女進堂祭 聖体礼儀 12月4日

讃詞、第四調。

今日神の恩恵は示され、人々の救は伝へらる、童貞女は明かに神の殿に現れて、預めハリストスを衆人に知らしむ。我等も声を揚げて彼に呼ばん、造物主の思慮の成就なる者よ、慶べ。

今日神の恩恵は示めされ 人々の救いは伝えらる童貞女
はあきらかに神の堂にあらわれてあらかじめ分トスを
衆人に知らしむ我等も声をあげてかれに呼ばん
造物主の思慮の成就となる者や、よろこべ

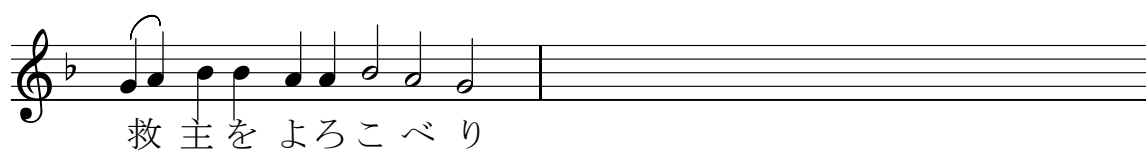
小讃詞、第四調。

救世主の最浄き殿、至りて貴き宮、神の光栄の聖にせられし宝蔵たる童貞女は／今日主の家に入れられて、聖神の恩寵を共に入らしむ。神の使等は彼を歌ひて曰ふ、此の天の幕なり。

救世主のいとよき殿 至りて貴きみや
神の光えいの聖にせられし宝蔵たる童貞女は
今日主の家に入りて 聖神の恩寵をともに入らしむ
神のつかい等は 彼を歌ひて曰ふ これ天の幕なり

提綱、生神女の歌、第三調。

我が^{たましい}靈は主を^{あが}め、我が^わ神は^{しん}神我が^{かみわ}救主を^{きゆうしゅ}悦^{よろこ}べり。句、蓋^{けだし}其^{その}婢^ひの卑^{いや}しきを^{かえり}顧^{いま}みたり、今^{いま}より^{のち}後^{ぼん}萬^{せい}世^{われ}我^{さい}を^{わい}福^いなりと謂^いはん。



句、蓋其婢の卑しきを顧みたり、今より後萬世我を福なりと謂はん。

【使徒の誦読はエウレイ書三百二十端】

兄弟よ、第一の約には奉事の例と地に属する聖所とありき、蓋第一の幕は設けられて、其内に燈台と、案と、供前の餅とありき、是を聖所と稱す。第二の帷の後に至聖所と稱する幕ありき、茲には金の香炉と、遍く金を蔽ひたる約櫃とあり、其内に「マンナ」を蔵めたる金の壺、アアロンの萌せる杖、及び約の碑あり、其上に購罪所を覆へる光荣のヘルウィムありき。此等の事は今詳に言ふを庸いず。此等の物斯く備はりて、第一の幕には司祭等恒に入りて、奉事を行ひ、第二の幕には獨司祭長のみ、一年に一次、血を攜へざるなくして入り、之を己の為及び民の愆の為に獻ず。

「アルリイヤ」、第八調、女よ、之を聴き、之を觀、爾の耳を傾けよ。句、民中の富める者は爾の顔を拝まん。



【福音經の誦読はルカ五十四端】

彼の時イイスス一の村に入りしに、或婦マルファと名づくる者、彼を其家に迎へたり。其姉妹にマリヤと名づくる者あり、イイススの足下に坐して、其言を聴けり。マルファは供事の多きに因りて、心を煩はし、就きて曰へり、主よ、我が姉妹我一人を遣して供事せしむるを爾意と為さざるか、之に命じて、我を助けしめよ。イイスス彼に答へて曰へり、マルファよ、マルファよ、爾は多くの事を慮りて心を勞せり、然れども需むる所は一のみ。

マリヤは善き分を扱ひたり、是は彼より奪ふ可からず。此を言ふ時、一の婦民の中より聲を揚げて、彼に謂へり、爾を孕みし腹と爾が哺ひし乳とは福なり。彼は曰へり、然り、神の言を聴きて之を守る者は福なり。

「常に福」に代えて

生神女進堂祭のカタワシャとして

諸 天使 は 純潔なる者の 進 殿を 観て おどろ けり
い 如何 して 光 栄を 以 っ て 至 聖所に 入 り たる。
聖にせられざる者の手は 敢えて 神の 生ける 約櫃に 触る べ から - ず
ただ 信者のくちは 黙 さずして 天使の 爾に 告げし 言を うた い
喜びて よぶ べ し 潔き 童貞 女よ 爾は 実に 万衆に 超えたり

【領聖詞】 我救の爵を受けて主の名をよばん。「アレルイヤ」。三次。

領聖詞 115聖詠 4

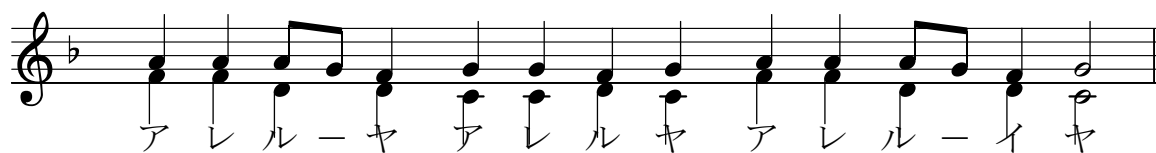
Sergey Glagorev



我 救いの爵 を 受 けて、 主 の 名 - を 呼 ば ん



我 救いの爵 を 受 けて、 主 の 名 - を 呼 ば ん



ア レ ル - ヤ ア レ ル ヤ ア レ ル - イ ヤ